

高齢者が生き生き元気になる敬老会を開くための課題と解決策

平成24年度 市民大学運営委員班

増田・今井・吉田・保高・北川・細井
古海・古澤・古川・村松・横山

市民大学の講座で、ワークショップの練習問題として取り組んだ敬老会について、各班での話し合いを元に、当班でも話し合った。

テーマ【高齢者が生き生き元気になるための敬老会】

〈定義〉高齢者：市の敬老会参加年齢の75歳以上（昭和12年以前生まれ）の方を指します。

[参考] 平成23年度 敬老会出席率

安塚区	40.78%	浦川原区	41.43%	大島区	44.31%
牧区	39.38%	頸城区	43.44%	大湊区	22.75%
柿崎区	17.80%	清里区	50.97%	名立区	44.68%
中郷区	23.62%	板倉区	25.78%	吉川区	29.19%
三和区	31.19%	旧上越市	45.10%	全市平均	38.37%

●課題●

コミュニケーション交流の場

- ・時間が少なく、人が多い
- ・認知症・難聴
- ・日常的にコミュニケーションの場がない
- ・参加できない・したくない人もいる

・日常的にコミュニケーションをとれる場をつくる

慰労する

- ・高齢者が望んでいない慰労のされかた（おまんじゅうをあげればよいのか？）

・聞き取り調査（アンケート）をとる方向

感謝の気持ち

- ・感謝を伝える側が、伝え方がわからない
- ・感謝の気持ちが伝わらない
- ・高齢者と関わりのない人たちは感謝の気持ちがわきにくい
- ・敬老について学校でどのように教育されているかわからない

・日常的に年長者との接点をつくる
・「ありがとう」と直接言える関係づくり

高齢者の知恵の伝承

- ・ 高齢者と若者をつなぐ場、仕組みが少ない
- ・ 聞く側に時間がなく、聞き方もわからない、聞かなくてもいいと思ってる人もいる
- ・ 高齢者だけを集めても伝承できない

・ 高齢者と若者をつなぐ仕組みをつくる

世代間交流

- ・ 高齢者だけが集められている→若年老人が高齢老人を支えている
→出席者とボランティア（保育園児含）との交流はある
- ・ 主催者側が敬老会を世代間交流の場であるという意識に乏しい
- ・ 日常的にも世代間交流できる場が少ない

・ 日常的に世代間交流できる仕組みをつくる

形式的な行事

- ・ 予算があるから使う
- ・ 主催者の労力的負担が大きいわりに成果がみえにくい
- ・ 意識も原点も考えずにやっている
- ・ 高齢者が受け身的に参加している
- ・ 敬老会の時だけで日常的な仕組みになっていない
- ・ 参加できない人が元気になる対策がない

・ 止める
・ お金をかけない方法を考える
・ 自主運営してもらおう（高齢者が発表できる場）
↑サポートが必要

○総合的な解決策○

- ① 敬老会を高齢者が望む会にする
 - ・ 参加できない人に参加できない理由を尋ね、考え、改善していくように取り組む
 - ・ 高齢者がしてほしいことを行う
- ② 日常的に高齢者がコミュニケーションをとれる仕組みをしかける
 - ・ 人と話せる・食事ができる・一緒になにかできる居場所をつくる
 - ・ 世代間で交流できる場所をつくる

メッセージ

敬老会は生き生き元気対策の1つになっているが年1回の敬老会ではなく、日常的に高齢者用生きがい、居場所を作ることが必要。

このことが病気予防・介護予防につながる。生きがいづくり、居場所づくりには初期投資にお金が必要で広がりを出すことの支障になっている。

病気予防・介護予防のための居場所づくりの費用は健康保険や介護保険の支払いの金額に比べれば、はるかに少なくて済む。